

在学生の声

ビッグデータを活用したアプリ開発研究



ICTイノベーターコース 1年

ビベク バスネット さん

Bibek Basnet

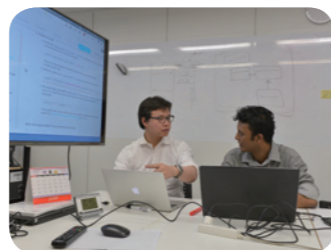
**私** はネパールの出身です。2016年に入学し、地元の食品関連企業と協力しながらビッグデータを活用したアプリの開発研究などに取り組んでいます。

この大学院の魅力は、さまざまな経験を持つ世界各国の学生と一緒に研究ができることです。教授・講師の国籍や経験も多様です。議論をすると、自分にはなかった視点に気付くことが多く、とても刺激的です。

2015年来日する以前は、インドの大学を卒業し、2年間、インドのソフトウェア会社に勤めていました。兄を訪ねて日本に来た際、良い印象を持ったのがきっかけで留学を決めたんです。

この大学院を選んだ理由の一つは、英語で授業が行われること。

アジア、アフリカ、ヨーロッパなど世界のさまざまな国から集まる人材と幅広いネットワークを作ることできます。修了後は日本で就職したいと思っています。将来は、ネパールで会社を立ち上げ、国の発展に役立ちたいと考えています。



神戸情報大学院大学

情報技術研究科 ICTイノベーターコース

POINT

ICTを活用した国際協力に焦点

研究の基本は「探究実践」

全課程を英語で履修

大学・大学院情報

- 📍 ▶ 兵庫県神戸市
- 🏠 ▶ 情報システム修士(専門職)
- 💰 ▶ 140万円(初年度)※入学金含む
- 👥 ▶ 55人
- 🎓 ▶ あり



School Data

〒650-0001  
兵庫県神戸市中央区加納町2-2-7

TEL 078-262-7715

Email info@kic.ac.jp



教授の声

Q. 授業や学生の様子は?

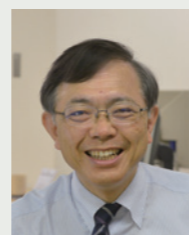
ソフトウェア工学基礎論、技術者倫理などの授業を担当しています。研究室には、ICTイノベーターコースの学生が6人、ICTプロフェッショナルコースの学生が2人在籍しています。社会課題がさまざまな分野に広がり、常に変化中、ソフトウェア工学などの専門だけでなく、学際的なアプローチも取り入れています。ICT技術も急速に高度化、多様化しています。多くの人材がチームを組んで問題を解決していく必要があり、プロジェクトマネジメントを基本に課題解決を目指します。

Q. どんな進路を目指す人に向いているの?

社会が求めているのは、新たな課題を発見し、幅広い知識やスキルを活用して課題解決のためのサービスやシステムをデザインできる高度ICT人材です。ICTに関する知見だけでなく、ビジネスやプロジェクトマネジメントの基礎知識、論理的思考力が必要です。そうした力を身に付け、社会貢献を目指そうとする人を歓迎します。

情報技術研究科  
伊藤 守 教授  
Ito Mamoru

専門はソフトウェア工学、プロジェクトマネジメント



ICT活用で国際社会の課題を解決

神戸情報大学院大学は、社会に必要とされるICT(情報通信技術)人材の育成を掲げる専門職大学院。開発途上国からの留学生らと共に国際協力・社会開発に焦点を当てて学ぶ「ICTイノベーターコース」と、企業の実務につながる実践力を重視する「ICTプロフェッショナルコース」がある。

ICTイノベーターコースは、ICT関連と社会開発関連の科目が充実し、全課程を英語で履修する。アジア、アフリカ、中東など各国からの学生が在籍し、日本国内にいながら、さまざまな国の学生と研究できる環境が整う。

ICTを活用した国際協力の可能性は、教育、医療・福祉、農業、環境などさまざまな分野に広がっている。そのため、カリキュラムは、分野にとられず自ら課題を発見し、解決策を練り上げる「探究実践」が基本だ。留学生の多くは「学んだことを国の将来に役立てたい」と、自国の社会課題に向き合う。2年間の鍛錬で、学生は実践力や社会改革に必要なリーダーシップを身に付けていく。

教員のキャリアは多様で、国際協力の現場やIT業界で活躍してきた実務家も多い。

開発途上国の政府、国際協力機構(JICA)、グローバル企業との連携も進めている。またIT初心者には授業内サポートのほか、eラーニング教材も用意され、きめ細かいサポートが行われている。

イチオシ  
課題解決型プロジェクト



神戸情報大学院大学では、課題解決型プロジェクトによる実践形式の研究活動を推進している。藤原研究室では、2016年10月から地元酒造メーカーより活動フィールドの提供を受け、酒米の収量向上と栽培の省力化を図るためのICT活用を進めている。

- JICA委託の研修がベース**  
 ICTイノベーターコースのカリキュラムは国際協力機構(JICA)からの委託で、2012年にアフリカ8カ国の政府高官など29人に対して行った研修がもとだ。ルワンダの大学と連携協定を結ぶなど今もアフリカとの縁は深い。
- ICT4D プロジェクト演習**  
 ICTイノベーターコースのクラスの一つで、「開発(Development)のためのICT実習」という意味。原則として英語で行われ、留学生も交えて議論を重ねながら、ICTを生かした社会開発・発展のデザインを探る。
- ICT 初心者でも安心**  
 コンピュータやプログラミングについての知識が不十分でも支障はない。入学直後に基礎的知識・スキルを学ぶことができ、その後はICTの専門知識に加えて、探究実践型授業で創造力や課題解決力を養っていく。

**私が目指すSDGs**

モノづくりは、製品をつくって売っただけがすべてではありません。使い終わった後のリサイクルにも責任を持つ必要があり、そうした中でICTやビッグデータを活かし、環境保全にもつなげたいと思います。

12 つくる責任 つかう責任

**学生さんに聞きました!**



高野 朋子さん  
情報技術研究科  
ICTプロフェッショナル  
コース1年

**日々留学生と議論を楽しんでいる**

社会人を経験後に語学留学したことで、ビジネスの観点からも国際交流に興味を持ちました。今では毎夏、海外からホームステイ希望者を受け入れているほどです。マーケティングやデータ分析に必要な知識をつけたくて本大学に入りました。それまでICTの意味さえ知らなかった私でも、基礎から無理なく学ぶことができました。

ICTプロフェッショナルコースの授業は日本語ですが、クラスの約半分は留学生で、活発な議論が行われています。英語で行われる高原先生の「ICT4D Project Exercise」では私以外、全員アフリカからの留学生なのでなおさらです。どんなプロジェクトも対象となる人の理解が不可欠なので、留学生との議論はお互いを理解する好機と考えて楽しんでいます。2児の母として、将来は途上国の子どもたちの教育環境を向上できるプロジェクトにも携わりたいです。

取得可能な学位：情報システム修士(専門職)  
 定員：55人  
 学費：入学金20万円/授業料120万円(年額)  
 開講形態：昼・夜  
 奨学金：あり  
 所在地：〒078-262-7715 兵庫県神戸市中央区加納町2-2-7  
 TEL：078-262-7715  
 MAIL：info@kic.ac.jp  
 HP：https://www.kic.ac.jp/



国際協力を学ぶ

国際色豊かな環境でICTを使った社会課題解決を学ぶ

さまざまな国・地域出身のメンバーと先端技術とその活用方法を学ぶ

**神戸情報大学院大学**

情報技術研究科

神戸情報大学院大学は、人間力を備えた情報通信技術(ICT)人材を育成する専門職大学院として2005年に開学。当初は高度な実務能力を有するICTエンジニア養成のための「ICTプロフェッショナルコース」(4月入学・日本語授業)のみでスタートしたが、2013年からはICTを活用した途上国の課題解決、及び国際協力を学ぶ「ICTイノベーターコース」(10月入学・英語授業)を開設した。ICTイノベーターコースにはアフリカ、中東、アジアの途上国から毎年多くの留学生が入学し、際立った多様性を見せている。教授陣は、企業でのシステム開発やプロジェクトマネジメント、海外でのICT4Dなど、豊かな実践経験を持った実務家を中心だ。都市開発など、専門分野も幅広い。

例えば、高原敏電特任教授は大阪芸術大学映像学科を卒業後、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊に参加して

セネガルへわたり、村に映写機を持ち込んで視聴覚教育を行った経験を持つ。「アフリカからの留学生や元エンジニアなど、学生の話をよく聞いて、授業に活かすようにしています。我々は、幸せや面白さを生み出すきっかけとして、社会開発があると捉えています。いろいろと試行錯誤できる人に入学会してほしいですね」と、高原特任教授。母国の発展を願う留学生と切磋琢磨しながら、国際感覚を身につけ、ICTを学びたい人に最適な環境がここにある。



教えてくれた先生  
高原 敏電先生  
情報技術研究科  
情報システム専攻  
特任教授

専門はICT 4D、社会開発。青年海外協力隊、JICA企画調査員を経て神戸情報大学院大学修士。18年から現職。

## 大学の国際化 最前線

# 途上国で進むICT活用 スタートアップ企業立ち上げも

神戸情報大学院大学 情報技術研究科 情報システム専攻  
ICTイノベータコース

## アフリカICT立国の人材を育成

2005年に開学した神戸情報大学院大学（以下、KIC）は、社会の課題を情報通信技術（ICT）と人間力で解決する専門職大学院だ。高度な実務者を育成する「ICTプロフェッショナルコース」と、開発途上国の課題解決や国際協力を推進する「ICTイノベータコース」の二つのコースを提供している。ICTイノベータコースは、アフリカ諸国やインドなどでICTの普及が急速

に進んでいることを背景に、2013年に立ち上げられた。これらの国は人口増加に伴い有望市場として注目されるが、工業化やインフラ整備の遅れなど課題も多い。この点について、福岡賢二副学長は「ICTを活用すれば画期的な解決方法を作り出せる可能性があります。

見方を変えれば、ICTを活用することで新たなビジネスチャンスが生まれます」と語る。

ICTイノベータコースは、国際協力機構（JICA）の短期研修も含めてこれまで70の国と地域から留学生たちを受け入れている。中には、修士課程修了後にその優秀さを買われて日本の大手企業に就職する人も増えているという。

近年は、アフリカでも随一のICT立国と言われるルワンダの学生が多い。さらに、同コースはルワンダの首都キガリで、神戸市と共に2017年3月からJICAの草の根技術協力として若手ICT

人材の育成事業も実施している。KICは実践的なICT教育と課題解決力を学ぶだけではなく、日本国内では数少ないアフリカをはじめとした海外からの志高い留学生と共に学ぶことができる多様性のある国際的な環境だ。「日本の学生に、もっと神戸情報大学院大学で学んでほしいと思います。世界に対する発言力や世界レベルのディスカッションについていける、世界と日本を結ぶようなダイナミックなビジネスにかかわる人たちが日本から出てきてもらうことを願っています」と、福岡副学長は話す。

## スタートアップ企業立ち上げも

KICは、2018年4月、米国カリフォルニア州の航空宇宙関連企業、Swift Engineering Inc.との共同出資で、無人航空機（UAV）を活用した事業を

行うスウィフト・エクスアイ(株)を神戸市に設立した。同社の役割として、道路などのインフラが乏しい中で「リープフロッグ」と呼ばれる、技術進化の段階を跳ばしたイノベーションが起こっているルワンダをはじめとする途上国において、社会課題の解決が期待されている。

「KICは多様性を重視しています。ここでの学びを通して、ICTが途上国の課題解決に役立つことや、広い視野を持つことの大切さを知ってもらえればと思います」と、福岡副学長は話してくれた。



ドローン活用ビジネスを授業で発表するICTイノベータコースの学生